

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2005～2008  
 課題番号：17300201  
 研究課題名（和文） 現代社会におけるスポーツの諸問題と多元的価値に関する研究  
 ～スポーツ文化・現代身体論への学際的アプローチ～  
 研究課題名（英文） Interdisciplinary Study on the Problems of Body and the multiple Values  
 of Sport in modern Society  
 研究代表者  
 佐藤 臣彦（SATO TOMIHIKO）  
 筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授  
 研究者番号：40092697

## 研究成果の概要：

本研究プロジェクトでは、スポーツは単なる身体的事象ではなく、他の芸術分野と同様、それ自体の独自性を持つ文化であることを理論的に明らかにするとともに、すでにギリシア時代に、自らの身体能力自体を競い合う心性が存在していたことを明らかにした。また、身体についても、単なる自然的存在ではなく、大きな可塑性を有する文化的存在で、その育成には体育（身体教育）が決定的に重要な役割を果たしていることを明らかにした。

## 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	4,200,000	0	4,200,000
2006年度	4,300,000	0	4,300,000
2007年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2008年度	3,100,000	930,000	4,030,000
総計	14,900,000	1,920,000	16,820,000

## 研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・スポーツ科学

キーワード：スポーツ文化、スポーツ問題、身体論、多元的価値、学際的アプローチ、人文学的方法、身体教育、体育哲学

## 1. 研究開始当初の背景

我が国におけるスポーツ文化および身体論に関する人文社会科学研究は、研究の対象や方法に関してまだ統一がとれておらず、スポーツの自然科学研究に比べ、社会的な認知度も低い状況にあった。スポーツや人間の身体は、人為によって作り出される文化的所産であるが、こうした認識は未だ一般化されておらず、従来の研究では、自然科学的な身体観や実験的な手法に依拠するケースが主流をなしてきた。この傾向は、他の東アジア諸国やヨーロッパにおいても顕著であり、日本の場合と同じく、スポーツや人間の身体が文化的所産であるという認識が立ち後れているのが実情である。こうした現状に対し、本研究プロジェクトでは、人文社会科学に固有

の概念論的もしくは文献学的方法を用いることで、スポーツ文化に見いだされる諸問題や身体理解に対し、新たな方向性を提示できると考えた。哲学や美学、西洋古典学においても、スポーツ文化や身体論への関心が高まっており、これらのニーズに応え、それぞれの専門領域に対し、本研究プロジェクトによって、現在の体育・スポーツ学における研究成果を提示できる期待される。

## 2. 研究の目的

現代社会において、スポーツは、競技として、教材として、遊びとして、商品として、メディアとして、さらには、学問の対象として、多元的な価値を持つ文化事象となっている。しかし、その一方で、ドーピングや人体改造、フリーガン、選手と協会組織やマスメ

ディアとの軋轢など、さまざまな諸問題を引き起こしている。本研究では、哲学、倫理学、美学、教育学、科学論、遊戯論、身体論など、人文社会科学のさまざまな専門家を参集し、自然性、社会性、文化性それぞれの要素がきわめて複雑に絡んだスポーツに対して学際的なアプローチを試みる。具体的には、「スポーツとは何か」というスポーツ哲学に固有な問いを基盤としながら、競技としてのスポーツには、古代ギリシアの運動競技論や英国近代のスポーツ論が、メディアとしてのスポーツについては、スポーツ美学やミーメシス論が、遊びや教材としてのスポーツについては、遊戯論や教育学が、人体改造やトレーニングの問題に対しては、スポーツ科学論やスポーツ倫理学や身体論などが方法論的に対応できると考えられる。また、スポーツ現象や体育現象の基盤をなす人間身体についても、こうした人文科学的な研究方法論を駆使することで、これまで見落とされてきた論点を明らかにしつつ、具体的な解決策の提示を目指す。

### 3. 研究の方法

本研究では、スポーツ文化や人間存在の基底をなす身体に対し、哲学、美学、教育学、科学論、遊戯論、身体論など、学際的なアプローチによって考察を進めるとともに、古代、近代、現代といった通時的・歴史的なアプローチや、日本、英国、中国、ドイツといった共時的・地域的なアプローチを可能とする研究者を参集し、それぞれの専門性から多元的に取り組む研究体制を構築した。本研究プロジェクトの意義は、従来のスポーツ哲学研究が陥りがちだった観念論的論議を克服し、スポーツや人間身体をめぐる諸問題に対し、具体的現実を足場としながら、それぞれの専門的方法論による具体的な課題設定と解決の方向性を提示しようとするところにあり、スポーツや身体に対する人文科学的知見の再統合に資する点にある。

### 4. 研究成果

2005年度から2008年度に至る4年間の本研究プロジェクト期間において、3回におよぶ海外での国際研究会や国際シンポジウムに参加し(①2006年3月:ベルリン自由大学:参加者4名、②2007年1-2月:エストニア・タリン大学:参加者1名、③2008年10-11月:中国広州・華南師範大学:参加者4名)、研究成果を発表するとともに海外研究者との研究交流を推進した。また、毎年2回、計8回におよぶ国内研究会を開催し(うち4回は日本体育学会期間中に同時開催)、それぞれにおいて研究成果を発表するとともに(学会での研究発表を含む)、暫定的総括をおこない、さらにプロジェクト進行に関する協議を重ねた。

その結果、雑誌論文については計30件(海外研究誌:9件、国内研究誌:21件)、学会発表については計39件(海外:12件、国内:

27件)、さらに図書については、単著、共著合わせ、延べ計12件(うち、海外での出版5件)という、成果を上げることができた。

以下、おのおのプロジェクトメンバーの研究成果の概要を述べる。

#### (1) 佐藤臣彦(筑波大学・研究代表者)

研究成果としては、研究論文7件(海外:6件、国内:1件)、学会・研究発表17件(海外:5件、国内:12件)、著書2件(単著・韓国語訳の出版、共著、各1件)であった。

研究内容であるが、スポーツ問題としては、「スポーツ教育におけるエリート主義の意義」について、他の芸術分野におけるエリートとの比較を通して、積極的な評価を理論的に基礎づけつつ、スポーツ文化特有の問題を論じ、韓国語への翻訳がなされた。また、スポーツの社会的役割についても実証的データをもとに論じた成果が、中国学会誌に掲載された。さらに、スポーツに対する哲学的研究方法についてもまとめている。

身体論については、日本体育学会体育哲学専門分科会における2年計画のシンポジウムA「身体論への多元的アプローチ」を企画立案、1年目は「身体論の系譜学」、2年目は「身体論の多層的展開」というサブテーマで、本研究プロジェクト・メンバーを中心に、研究発表とともに討論をおこなった。また、「ギリシア彫刻にみる身体認識」というテーマでの招待講演も行った。身体論については、さまざまな通時的および共時的な視点からの研究を推進し、体育的身体論を従来の既成枠から大きく展開することができた。

また、これらの研究成果の一端は、日本体育学会監修の『最新スポーツ科学事典』(平凡社、2006年)における以下の大項目(①運動形式、②身体教育、③スポーツ文化、④体育、⑤体育哲学)に反映されている。

さらに、以下の海外学会での招待講演において研究発表をおこなった。①2007 International Sport Science Congress(韓国)、②2007 International Seminar for the Philosophy of Sport and Dance(韓国)、③2007 Hsinchu International Conference on Hakka Culture, Festivals and Tourism(台湾)、④The 3<sup>rd</sup> International Forum on Sport for All(2007年、中国広州)、⑤2008 KNSU International Conference(韓国)。発表内容は論文として各国語に翻訳され、それぞれ後述の研究誌に掲載された。

#### (2) 樋口 聡(広島大学・研究分担者)

研究成果としては、研究論文5件(海外:1件、国内:4件)、学会・研究発表9件(海外:5件、国内:4件)、著書7件(海外:4件、国内3件)であった。

研究課題は、スポーツ美学、遊戯論、身体論、感性教育論と幅広く、国際的な研究活動も活発で、後述のようにそれぞれの課題にお

いて成果を上げた。遊戯論、感性教育論については、ドイツで出版された専門書（後述の「図書」項目参照）に論文が掲載されるなど、国際的な評価を得ている。こうした研究は、スポーツ学や体育学に対しても基本的知見を提供するもので、その研究成果の一端は、前述の『最新スポーツ科学事典』（平凡社、2006年）における項目（①遊び、②心身関係論、③スポーツ学、④スポーツ美学、⑤体育学など）において明示されている。また、海外の学会での招待講演（スポーツの美学：歴史・基本問題・展望、韓国・上海光伝大学、2006.9.8；新しい感性教育論、中国・華東師範大学、2007.5.11）や研究発表（A Holistic Conception of Health & Education. 第10回ヨーロッパ心理学会シンポジウム、チェコ・プラハ、2007.7.6；The Politics of Art in Modern Japan: The Fine Arts versus the Martial Arts. 第17回国際美学会議、トルコ・アンカラ、2007.7.12；Archaeology of the Art of Body Movement: Learning from Japanese Ko-bujutsu. International Conference “Bodies in Motion: Explorations in Perception & Performance”, USA, フロリダ、2008.12.5）により、国際的舞台での評価を確かなものとしている。

(3) 小林日出至郎（新潟大学・研究分担者）

研究成果としては、研究論文2件（英語：1件、国内：1件）、学会・研究発表2件（海外：1件、国内：1件）、著書1件（共著）であった。

日本の伝統的な武道文化である「剣道」について、その思想的背景を「禅」に求める研究を、エストニアのタリン大学でおこなわれた国際研究集会において発表し、身体運動文化における文化的独自性について明らかにした。また一方で、世界最古の叙事詩『イーリアス』における運動競技（スポーツ）に関する記述に着目し、古代ギリシアにおける競技者の mentality（心性）に見える特性を明らかにする研究を押し進めた。これらの研究成果の一端は、前述の『最新スポーツ科学事典』（平凡社、2006年）における項目（①運動様式、②競技的運動文化、③伝統的運動文化）に反映されている。

(4) 新保淳（静岡大学・研究分担者）

研究成果としては、研究論文6件（国内：6件）、学会・研究発表2件（国内）であった。

研究課題は、「スポーツ（学）」および「身体」について科学的視点から再検討するもので、体育学やスポーツ学の学問的基盤を明確化する上で重要な論点となるテーマを研究した。ベルリン自由大学における研究集会では、“Problems in the philosophy of sport Science”と題する報告をおこない、ドイツの研究者と意見交換を行った（2006.3.2）。また、日本体育学会第59回大会（早稲田大学、2008.9.12）における体育哲学専門分科会シンポジウムA：身体論への多元的アプローチ（2）では、「科学的身体論：身体におけ

る自然性」というテーマで研究発表をおこない、身体教育が対象とする身体性についての科学的根拠を明らかにした。

(5) 杉山英人（千葉大学・研究分担者）

研究成果としては、研究論文5件（国内）、学会・研究発表4件（国内）、著書1件（共著）であった。

研究課題は、体育の対象となるスポーツや身体について、実践的観点から教育的に基礎づけようとするもので、現場の体育実践がスポーツの試合をすることに傾斜しすぎている現状を改善するための理論的根拠の提供するものである。これらの研究成果は、日本体育学会第57回大会（弘前大学、2006.8.19）における体育哲学シンポジウムA：保健体育教員養成の今後を考える（2）-（保健）体育教員養成の理念と哲学、同58回大会（神戸大学、2007.9.6）における同専門分科会シンポジウムB：自然科学からみた身体教育論、同59回大会（早稲田大学、2008.9.12）における同専門分科会シンポジウムA：実践的身体論-身体における文化性、において発表がなされるとともに、論文の形でも公表された。また、前述の『最新スポーツ科学事典』の項目（①三育思想、②知育、③徳育）の執筆も担当した。

(6) 木庭康樹（広島大学・研究分担者）

研究成果としては、研究論文6件（海外：1件、国内：5件）、学会・研究発表6件（海外：1件、国内：6件）、著書1件（共著）であった。

研究課題は、ギリシア哲学思想、特にプラトンに焦点化し、スポーツ概念や身体思想の淵源を明らかにしようとするものである。ベルリン自由大学における研究集会において、“The Fundamental Characters of SOMA in Plato’s Philosophy”と題する研究報告をおこなうとともに（2006.3.2）、華南師範大学（中国広州）で開催された“The 3<sup>rd</sup> International Forum on Sport for All”（2008.11.1）において「社会体育と身体性-柏拉图哲学中国家社会与体育的理念-（社会体育と身体性 プラトン哲学における国家社会と体育の理念）」を発表し、中国学会誌にも掲載された。また、これらの研究成果の一端は、前述の『最新スポーツ科学事典』における項目（①身体運動、②行動、③行為、④身体活動）にも反映されている。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）  
〔雑誌論文〕（計31件）

- ① 新保淳：科学的身体論：身体における自然性。体育哲学研究，第39号：印刷中，2009，査読有
- ② 杉山英人：実践的身体論-身体における文化性。体育哲学研究，第39号：61-67，2009，査読無（印刷中）
- ③ 木庭康樹，田井健太郎，上田丈晴，沖原謙：サッカーのゲーム分析のための原理論構築に向けたスポーツのゲーム構造論に

- 関する研究－「身体運動競技（スポーツ）」の基底詞としての「競技」概念の検討－。体育・スポーツ哲学研究，第31巻第1号：印刷中，2009，査読有
- ④ 佐藤臣彦（金貞孝訳）：스포츠교육에 있어서 엘리트주의의 의미 (A significance of the elitism in sport education) .Field Applications of Humanities & Social Sciences of Sport (2008 KNSU International Conference) :21-30, 2008, 査読無
- ⑤ 佐藤臣彦：スポーツ教育におけるエリート主義の意義. Field Applications of Humanities & Social Sciences of Sport (2008 KNSU International Conference) : 9-19, 2008、査読無
- ⑥ 樋口聡：異文化理解と教育－オーストラリアにおける事例観察と問題の展望－. 広島大学大学院教育学研究科紀要(第一部), 第57号:17-26, 2008, 査読有
- ⑦ 樋口聡：学習集団の組織化と学びの個別性・協同性. 学校教育, 第1093号:12-17, 2008, 査読無
- ⑧ 小林日出至郎：『イーリアス』における運動競技の特性に関する研究. 新潟体育学研究, 第25巻:9-13, 2008, 査読有
- ⑨ 新保淳：科学論的視点から見たスポーツ科学における問題領域の検討. 体育哲学研究, 第38号:15-27, 2008, 査読有
- ⑩ 新保淳：スポーツ科学における「身体」を対象とする方法論上の問題. 静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇), 第58号:101-110, 2008, 査読有
- ⑪ 杉山英人：自然科学からみた身体教育論－体育における身体と動きの関係性. 体育哲学研究, 第38号:109-112, 2008, 査読無
- ⑫ 木庭康樹：身体論の淵源：古典期ギリシアの身体論－プラトンを中心に－. 体育哲学研究, 第38号:87-98, 2008, 査読無
- ⑬ 木庭康樹：プラトン哲学におけるエウエクシアとは何か？－ギムナスティケーが目指すべき身体の状態について－. 体育哲学研究, 第38号:1-14, 2008, 査読有
- ⑭ 佐藤臣彦（金貞孝訳）：日本の体育哲学（韓国語訳）. 2007 Philosophical Exploration of Sport and Dance: 33-43, 2007, 査読無
- ⑮ SATO Tomihiko: Philosophy of Physical Education in Modern Japan. 2007 Philosophical Exploration of Sport & Dance: 19-31, 2007, 査読無
- ⑯ SATO Tomihiko: Sport and Philosophical Method. Pursuing Happiness through Sport & Leisure, Proceedings of 2007 International Sport Science Congress (The Korean Alliance for Health, Physical Education, Recreation and Dance): 70-73, 2007, 査読無
- ⑰ 佐藤臣彦（周愛光・陸作生訳）：日本社会体育的発展（中国語訳）. 体育学刊, 第14巻第9期:20-23, 2007、査読有
- ⑱ 樋口聡：在社会体育里アート（art）教育的作用（中国語）. 体育学刊, 第14巻第9期:28-30, 2007, 査読有
- ⑲ 木庭康樹（王水泉訳）：社会体育与身体性－柏拉图哲学中国国家社会与体育的理念－. 体育学刊, 第14巻第9期:24-27, 2007, 査読有
- ⑳ 樋口聡：教育における身体と知. 大学時報, 第56巻(313号):70-75, 2007, 査読無
- ▯ KOBAYASHI Hideshiro: Study on the Significance of Homer and Plato in Modern Sport, Comparative Studies in Religious Thought, Vol. 7:85-95, 2007, 査読無
- ▯ 新保淳：体育教員における「専門性」とその養成に関する研究. 体育哲学研究, 第37号:1-10, 2007, 査読有
- ▯ 杉山英人：(保健)体育教員養成の理念と哲学－体育教員養成の基本的論点について－. 体育哲学研究, 第37号:115-118, 2007, 査読無
- ▯ 木庭康樹：古代ギリシアにおけるプラトンの身体論－教養人の身体とは何か－. 体育哲学研究, 第37号:97-106, 2007, 査読無
- ▯ 木庭康樹：プラトンの運動競技論序説－スポーツ概念のギリシア的把握に向けて－. スポーツ史研究, 第20巻:95-108, 2007, 査読有
- ▯ 佐藤臣彦、体育哲学の課題. 体育・スポーツ哲学研究, 28-1:1-10, 2006、査読有
- ▯ 樋口聡：子どものための英語教育－シュタイナー教育における実践からの示唆－. (共著、筆頭), 広島大学大学院教育学研究科紀要(第一部), 第54号:19-28, 2006, 査読有
- ▯ 新保淳：スポーツ科学発展のための科学的知識の生産様式に関する研究. 体育哲学研究, 第36号:21-28, 2006, 査読有
- ▯ 新保淳：科学技術社会における身体性の基軸形成の必要性. 静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇), 第37号:127-134, 2006, 査読有
- ▯ 関根正美, 杉山英人, 畑幸幸：オリンピック運動とオリンピック競技者に対するスポーツ哲学の役割. 体育・スポーツ哲学研究, 第28巻第2号:111-117, 2006, 査読無
- ▯ 杉山英人：David Bestの大学制度における体育・スポーツ論－教育・研究領域としての体育・スポーツの確立に向けて－. 体育・スポーツ哲学研究, 第28巻第1号:21-37, 2006, 査読有
- [学会発表] (計40件)
- ① HIGUCHI Satoshi: Archaeology of the Art of Body Movement: Learning from Japanese Ko-bujutsu, International Conference “Bodies in Motion: Explorations in Perception and Performance” (アメリカ、フロリダ)、2008. 12. 5

- ② 佐藤臣彦：スポーツ教育におけるエリート主義の意義 (A significance of the elitism in sport education). Invited Speech, 2008 KNSU International conference, Korea National Sport University, Korea, 2008.11.6
- ③ HIGUCHI Satoshi: Innovations in Aesthetics and the Culture of Sport, 第36回国際スポーツ哲学会 (東京)、2008.9.14
- ④ 佐藤臣彦：身体論への多元的アプローチ (2) 身体論の多層的展開. 日本体育学会体育哲学専門分科会シンポジウムA 提案趣旨, 日本体育学会第59回大会, 早稲田大学, 2008.9.12
- ⑤ 新保淳：科学的身体論：身体における自然性. 身体論への多元的アプローチ (2) 身体論の多層的展開. 同上シンポジウムA, 同上学会大会, 早稲田大学, 2008.9.12
- ⑥ 杉山英人：実践的身体論：身体における文化性. 身体論への多元的アプローチ (2) 身体論の多層的展開. 同上シンポジウムA, 同上学会大会, 早稲田大学, 2008.9.12
- ⑦ 木庭康樹：スポーツのゲーム構造論に関する研究—サッカーのゲーム分析のための原理論構築に向けて—. 日本体育学会体育哲学専門分科会夏期合宿研究会, 箱根静雲荘, 2008.7.20
- ⑧ 樋口聡：今、求められる教師力：身体論の研究からの提言」第62回初等教育全国協議会シンポジウム (広島)、2008.2.9
- ⑨ 佐藤臣彦：ギリシア彫刻にみる身体認識. 招待講演, 日本臨床心理身体運動学会第10回記念大会, 筑波大学 (春日キャンパス), 2007.12.9
- ⑩ 佐藤臣彦：日本社会体育的新展開. Invited Main Speech, The 3<sup>rd</sup> International Forum on Sport for All, 華南師範大学, 中国広州, 2007.11.1
- ⑪ 木庭康樹：社会体育与身体性-柏拉图哲学中国家社会与体育的理念- (社会体育と身体性 プラトン哲学における国家社会と体育の理念). THE 3<sup>rd</sup> INTERNATIONAL FORUM OF SPORT-FOR-ALL, 華南師範大学, 中国広州, 2007.11.1
- ⑫ 佐藤臣彦：身体論への多元的アプローチ (1) 身体論の系譜学. 日本体育学会体育哲学専門分科会シンポジウムA 提案趣旨, 日本体育学会第58回大会, 神戸大学, 2007.9.7
- ⑬ 樋口聡：東洋的身体論の試み—西洋と東洋の相克—. 同上シンポジウムA, 同上学会大会, 神戸大学, 2007.9.7
- ⑭ 木庭康樹：古典期ギリシアの身体論—プラトンを中心—. 同上シンポジウムA, 同上学会大会, 神戸大学, 2007.9.7
- ⑮ 杉山英人：自然科学からみた身体教育論. 日本体育学会体育哲学専門分科会シンポジウムB 提案趣旨, 日本体育学会第58回大会, 神戸大学, 2007.9.6
- ⑯ 佐藤臣彦：自然科学からみた身体教育論. 同上シンポジウムB 討論演者, 同上学会大会, 神戸大学, 2007.9.6
- ⑰ SATO Tomihiko: Philosophical Perspectives of Sport and Body Culture. Keynote Speech, 2007 Hsinchu International Conference on Hakka Culture, Festivals and Tourism, 明新科技大学, 新竹, 台湾, 2007.9.1
- ⑱ SATO Tomihiko: Philosophy of Physical Education in Modern Japan. Invited Speech, 2007 International Seminar for the Philosophy of Sport and Dance, Hanyang University, Ansan, Korea, 2007.8.24
- ⑲ SATO Tomihiko: Sport and Philosophical Method. Invited Disciplinary Speech, 2007 International Sport Science Congress, Yonsei University, Seoul, Korea, 2007.8.24
- ⑳ 佐藤臣彦：日本の体育哲学—過去・現在・未来—. 日本体育・スポーツ哲学会シンポジウム 日本におけるスポーツ哲学研究の現状と課題, 日本体育・スポーツ哲学会第29回大会, 東京学芸大学, 2007.8.11
- ㉑ HIGUCHI Satoshi: The Politics of Art in Modern Japan: The Fine Arts versus the Martial Arts, 第17回国際美学会議 (トルコ、アンカラ)、2007.7.12
- ㉒ HIGUCHI Satoshi: A Holistic Conception of Health and Education, 第10回ヨーロッパ心理学会シンポジウム (チェコ、プラハ)、2007.7.6
- ㉓ 小林日出至郎：『イーリアス』の運動競技の特性に関する研究, 日本体育学会体育哲学専門分科会, 順天堂大学, 2007.5.26
- ㉔ 樋口聡：新しい感性教育論、招待講演 (中国、上海、華東師範大学)、2007.5.11
- ㉕ KOBAYASHI Hideshiro: The Idea of KENDO and the Way of Zen. International Forum on Sport Culture, Tallinn University, Estonia, 2007.1.30
- ㉖ 杉山英人：ハンス・レンク『シンボルとしての競技者』について. 日本体育学会体育哲学専門分科会定例研究会, 順天堂大学, 2006.12.16
- ㉗ 佐藤臣彦：人間力活性化—子どもから高齢者までの運動プログラムの開発—総括的報告. 健康・スポーツ科学研究の推進COEシンポジウム：新たな身体運動科学の創生—, ニッショーホール, 東京, 2006.10.29
- ㉘ 樋口聡：スポーツの美学：歴史・基本問題・展望, 招待講演 (韓国、ソウル、光伝大学)、2006.9.8
- ㉙ 佐藤臣彦：体育哲学研究の独自性. 日本体育学会体育哲学専門分科会夏期合宿研究会, 箱根強羅・静雲荘, 2006.7.23
- ㉚ 杉山英人：(保健) 体育教員養成の理念と

- 哲学. 日本体育学会体育哲学専門分科会シンポジウムA: 保健体育教員養成の今後を考える(2) 提案趣旨, 日本体育学会第 57 回大会, 弘前大学, 2006. 8. 19
- **新保淳**: 体育教員の専門性, 日本体育学会体育哲学専門分科会シンポジウムA-保健体育教員養成の今後を考える(2): (保健)体育教員養成の理念と哲学. 日本体育学会第 57 回大会, 弘前大学, 2006. 8. 19
  - **木庭康樹**: わが学問と親科学について, そして体育学とは?. 第 57 回日本体育学会組織委員会企画〈大学院セミナー〉, 弘前大学, 2006. 8. 19
  - **樋口聡**: 芸術学の変容—アート・東洋・教育・メディアの位相—. 広島芸術学会第 20 回大会シンポジウム, 広島, 2006. 7. 30
  - **佐藤臣彦**: 身体教育(体育)の独自性. 日本体育学会体育哲学専門分科会シンポジウムA 保健体育教員養成の今後を考える(2): (保健)体育教員養成の理念と哲学, 日本体育学会第 57 回大会, 弘前大学, 2006. 8. 19
  - **木庭康樹**: 古代ギリシアにおけるプラトンの身体論—教養人の身体とは何か—. 日本体育学会体育哲学専門分科会夏期合宿定例研究会, 箱根静雲荘, 2006. 7. 23
  - **木庭康樹**: プラトン哲学における身体論—ソーマ概念の体系的考察を通して—. 日本体育学会体育哲学専門分科会定例研究会, 順天堂大学, 2006. 6. 17
  - **佐藤臣彦**: 体育学における哲学的研究の方法と客観性. 日本体育学会第 56 回大会, 筑波大学, 2005. 11. 23
  - **佐藤臣彦**: 身体のなかの文化, 文化のなかの身体. 身体運動文化学会・日本体育学会体育哲学専門分科会合同シンポジウム提案趣旨, 身体運動文化学会第 10 回大会(体育学会との並行開催), 筑波大学, 2005. 11. 23
  - **佐藤臣彦**: 体育哲学研究におけるオリジナリティ. 日本体育学会体育哲学専門分科会夏期合宿研究会, 箱根静雲荘, 2005. 7. 24.
  - **佐藤臣彦**: 体育哲学の課題. 日本体育学会体育哲学専門分科会定例研究会, 筑波大学・東京キャンパス, 2005. 6. 18
- [図書] (計 12 件)
- ① **HIGUCHI Satoshi**: Ethische Reflexionskompetenz im Grundschulalter: Konzepte des Philosophierens mit Kindern, Peter Lang, 429 Seiten, (共著, pp. 193-204), 2007
  - ② **HIGUCHI Satoshi**: Philosophical Foundations of Innovative Learning, Academia, 280 Seiten, (共著, pp. 124-130), 2007
  - ③ **HIGUCHI Satoshi**: Concepts of Aesthetic Education: Japanese and European Perspectives, Waxmann Verlag, 198 Seiten, (共著, pp. 88-96) 2007
  - ④ **佐藤臣彦**: 運動形式, 身体教育, スポーツ文化, 体育, 体育哲学他. (監修) 日本体育学会『最新スポーツ科学事典』, 平凡社, 912 頁, (共著pp. 41-45, 415-417, 508-510, 567-568, 604-605), 2006
  - ⑤ **樋口聡**: 遊び, 心身関係論, 身体, スポーツ学, スポーツ美学. 体育学他. (監修) 日本体育学会『最新スポーツ科学事典』, 平凡社, 912 頁, (共著pp. 14-15, 400-401, 403-404, 458, 501-502, 574-575), 2006
  - ⑥ **小林日出至郎**: 運動様式, 競技的運動文化, 伝統的運動文化. (監修) 日本体育学会『最新スポーツ科学事典』, 平凡社, 912 頁, (共著pp. 79-80), 2006
  - ⑦ **杉山英人**: 三育思想, 知育, 徳育. (監修) 日本体育学会『最新スポーツ科学事典』, 平凡社, 912 頁, (共著pp. 328-329), 2006
  - ⑧ **木庭康樹**: 身体運動, 行動, 行為, 身体活動. (監修) 日本体育学会『最新スポーツ科学事典』, 平凡社, 912 頁, (共著pp. 409-410), 2006
  - ⑨ **佐藤臣彦** (権五輪訳): 身體教育을哲學한디-體育哲學叙說-. 무지개사出版, 単著, 288+14 頁, 2005
  - ⑩ **樋口聡**: 身体教育の思想. 勁草書房, 単著, 224 頁, 2005
  - ⑪ **樋口聡**: 教養としての体育原理. 大修館書店, 166 頁, (共著, pp. 8-14), 2005
  - ⑫ **HIGUCHI Satoshi**: Das Spiel als Kultur-techniki des ethischen Lernens, Lit Verlag, 279 Seiten, (共著, pp. 33-46), 2005
6. 研究組織
- (1) 研究代表者  
佐藤 臣彦 (SATO TOMIHIKO)  
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授  
研究者番号: 40092697
  - (2) 研究分担者  
樋口 聡 (HIGUCHI SATOSHI)  
広島大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号: 30173157  
小林 日出至郎 (KOBASHI HIDESHIRO)  
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授  
研究者番号: 10195802  
新保 淳 (SHIMBO ATSUSHI)  
静岡大学・教育学部・教授  
研究者番号: 30187570  
杉山 英人 (SUGIYAMA HIDETO)  
千葉大学・教育学部・教授  
研究者番号: 40251186  
木庭 康樹 (KINIWA KOUKI)  
広島大学・大学院総合科学研究科・助教  
研究者番号: 60375467
  - (3) 海外研究協力者  
Gunter Gebauer  
The Free University of Berlin・Professor  
周 愛光 (Zhou Ai Guang)  
華南師範大学 (中国・広州)・教授